

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 04070082 A

(43) Date of publication of application: 05.03.92

(51) Int. CI

H04N 9/31 G03B 21/10 H04N 5/74

(21) Application number: 02181025

(22) Date of filing: 09.07.90

(71) Applicant:

FUJITSU GENERAL LTD

(72) Inventor:

OCHIAI TADASHI

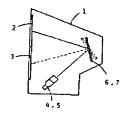
(54) BACK PROJECTION TYPE PROJECTOR

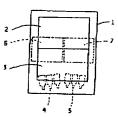
(57) Abstract:

PURPOSE: To enable multiple utilizing methods by providing plural screens which are serially arranged horizontally or vertically, and a mirror whose direction can be switched, and which switches image lights emitted from a RGB projecting tube into at least two screens among plural screens in order to form an image.

CONSTITUTION: Two screens 2 and 3 are serially arranged upward and downward at the front of a cabinet 1. Then, two pairs of RGB projecting tubes 4 and 5 are arranged at the bottom of the inside of the screens 2 and 3. And also, two mirrors 6 and 7 are arranged at the back of the inside like a light path formed between these RGB projecting tubes 4 and 5, and the screens 2 and 3. The directions of these mirrors 6 and 7 can be adjusted in two directions. Thus, the switch into one picture, plural picture 3, picture which has high luminance, and enlarged picture or the like can be obtained, and variety can be displayed.

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio





®日本国特許庁(JP)

⑩特許出願公開

@ 公 開 特 許 公 報 (A) 平4-70082

Sint. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

❸公開 平成4年(1992)3月5日

H 04 N 9/31 G 03 B 21/10 H 04 N 5/74 D 7033-5C Z 7316-2K F 7205-5C A 7205-5C

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全3頁)

会発明の名称 背面投写形プロジェクタ装置

②特 願 平2-181025

②出 願 平2(1990)7月9日

@発明者 落合

忠 神奈川県川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士通ゼネ

ラル内

の出 願 人 株式会社富士通ゼネラ

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

ル

仍代 理 人 弁理士 長尾 常明

明相音

 発明の名称 背面投写形プロジェクタ装置

2. 特許請求の範囲

(1). 機又は縦に連続的に並べた複数のスクリーンと、向きの切り替えが可能で且つRGB投写管から出射する像光を上記複数のスクリーンの内の少なくとも2個に切り替えて結像させるミラーとを具備することを特徴とする背面投写形プロジェクタ装置。

(2)、上記RGB投写管の組数を上記ミラーの数 に対応させたことを特徴とする特許請求の範囲第 1項記載の背面投写形プロジェクタ装置。

3. 発明の詳細な説明

[康業上の利用分野]

本発明は、多様性を図った背面投写形プロジェ クタ装置に関する。

[従来の技術]

この種のプロジェクタ装置は、キャピネットの 前面にスクリーンを配置して、内部のCRT (陰 極線質)からなるRGB投写質(3本)からのRGB色の像光による画像を、そのスクリーン上で 結像させるようにしたものである。

[発明が解決しようとする課題]

しかし、従来の背面投写形プロジェクタ装配は 一旦投計された態様から使用状態を変更させるこ とできず、不便であった。

本発明の目的は、多種の使用方法を実現できる ようにした背面投写形プロジェクタ装置を提供す ることである。

[課題を解決するための手段]

このために本発明の背面投写形プロジェクタ装置は、横又は縦に連続的に並べた複数のスクリーンと、向きの切り替えが可能で且つRGB投写管から出射する像光を上記複数のスクリーンの内の少なくとも2個に切り替えて結像させるミラーとを具備するように構成した。

本発明においては、上記RGB投写管の組数を 上記ミラーの数に対応させることができる。

[実施例]

以下、本発明の実施例について説明する。第1 図及び第2図はその一実施例の背面投写形プロジェクタ装置を示す図である。1はキャビネットであり、その前面に上下に連続して2枚のスクリーン2、3が配設されている。そして、そのスクリーン2、3の内側の下部には、先端のRGB投写管4、5が配設されている。また、このRGB投写管4、5が配設されている。との間に光路を形成するように、2枚のミラー6、7が内部の背部に配置されている。

このミラー6、7はその向きを2方向に顕整可能となっている。その調整時の回転軸はスクリーン2、3の接するラインの真後に設定され、従って、第1図の実線で示すように向きを設定するとRGB投写管4、5からの像光は上側のスクリーン2で結像され、また破線で示すように向きを設定すると同像光は下側のスクリーン3で結像される。

但し、ミラー5、6の中心部およびその横部分

を通る光線はそのミラーの向きが上向きでも下向きでも光路長が同一となるが、スクリーン 2の上側とスクリーン 3の上側との間、スクリーン 2の下側とスクリーン 3の下側との間では、光路長に差が生じて、結像される像の大きさが異なり歪みが生じる。

そこで、RGB投写間4、5の各々のCRTについて、上記光路長の差に基づく歪みを補正できるよう、ミラー6、7を上側に向けた場合のRGB投写管4、5の偏向系及び/またはレンス装置4a、5aの補正値と下側に向けた場合の同様の補正値を予め设定しておいて、ミラー6、7の調整に連動して、その補正値を選択するように設定する。

以上から、ミラー6を下側に向け、ミラー7を 上側に向けて、RGB投写管4、5から像光を投 写すれば、上側スクリーン2に一方のRGB投写 管4による像が結像され、下側スクリーン3に他 方のRGB投写管5による像が結像される。

従って、RGB投写管4、5に上下に連続する

ような上像、下像の信号を入力すれば、精細度を 失うことなく従来の2倍の広さの画面を実現する ことができる。なお、RGB投写管4、5に相互 に関連する像の信号を入力させて、一方のスクリ ーンで文字による説明を、他方のスクリーンで映 像による説明を行わせることもでき、更に全くスク リーンとして使用することもできる。

また、両ミラー6、7を同じ向きに向けて、RGB投写管4、5から同じ像光を投写させれば、スクリーン2又は3の一方に1組のRGB投写管で投写した場合の2倍の輝度の像が結像される。

このとき、上側のスクリーン2に結像させるようにすれば、そこを視聴する範囲が広くなるので、 多数の視聴者がいる場合に好適である。

逆に、下側のスクリーン3に結像させるように すれば、より近くから視聴することができるので、 小数の視聴者がいる場合に好適であり、この場合 は臨場感も高くなる。

なお、以上の実施例では上下2個のスクリーン

に結像する場合について説明したが、3個以上に することもでき、更に横方向に2又は3個以上に スクリーンを设けて同様に上記同様に結像させる こともでき、更に縦横複数個にすることもできる。 「発明の効果」

以上説明したように本発明の背面投写形プロジェクタ装置によれば、1個の画像/複数の画像/ 高輝度の画像/拡大画像等のよう切り替えること ができ、多様性を発揮できるという利点がある。

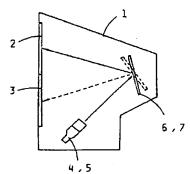
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の背面投写形プロジェクタ装置の側面概略説明図、第2図は正面の概略説明図である。

1 ··· キャピネット、2、3 ··· スクリーン、4、 5 ··· R G B 投写管、6、7 ··· ミラー。

代理人 弁理士 長 尾 常 明

第 1 図



第 2 図

